



写真左：一宮 賢治

白いころ

埋めたいのは、心の隙間

「入れ歯が外れるのが怖くて…」
おしゃべりが代名詞だったのに
歯が不安で無口になってしまった患者さん。

食べる意欲だけでなく
持ち前の明るさまで失っていて
なんとかして元気になりたいと思った。

歯科技工士になって、はや三十年。
病気が原因で歯を失ったことで
心も病んでしまう人たちの背中を幾度も見てきた。

私の仕事は、欠損した歯を埋めること。
でも、取り戻したいのはそれだけじゃない。
失われかけた笑顔を、もう一度、私の手で。

痛みが出ないか、身体に合っているか、
「歯のソムリエ」として
今日も患者さんの心に耳を傾けながら型を提案する。

完成したインプラントをつけた瞬間
あの患者さんが満面の笑みを浮かべたように、
誰かの生きる喜びを引き出した時が、何よりもうれしいから。

歯科技工士 一宮 賢治